

第2次三朝町教育ビジョン策定審議会 第1回会議 議事録

- 1 日 時 平成30年7月19日（木）午後6時13分～
- 2 会 場 三朝町役場2階 第3会議室
- 3 出席者 【委員】別紙名簿のとおり5名出席
【事務局】西田教育長・藤井課長・角田課長補佐・福田主任
- 4 概要 【委嘱状交付】審議会委員として5名に委嘱
【目的と規約】策定審議会の設置目的と設置要綱について説明
【議 事 等】第2次三朝町教育ビジョン策定スケジュール流れについて説明
骨子（案）について説明
各立場からの意見提案

5 内 容

（1）教育長あいさつ

- 【教育長】・これから三朝の教育について10年、20年見越したビジョンに、さまざまな立場で活躍しておられる皆様の英知を入れていただきたい。
- ・策定委員として皆様をお願いした経緯、考え方としては、三朝町にずっといて三朝町のことしか知らない人だと、広い視野で物事が見えないため、さまざまな場で広く活躍されている皆様をお願いした。
 - ・小学校統合について、平成16年、18年ごろからずっと話をきてなかなか前に進まなかったが、一気にこの問題を片づけてしまおうという機運が高まった中で、三朝町の教育がどうあるべきかを一度押さえておくことも重要だと考える。
 - ・国の法律が変わり、教育委員会制度が変わったということはあるが、三朝町の子どもたちをどう育て、死にゆくまで三朝で元気よく町づくりに精を出していただくような、支えになる教育はどういうものかといったことを、少しでも入れることができれば幸いに思う。

（2）審議会の設置目的と設置要綱について

- 【事務局】・平成18年3月に今の三朝町教育ビジョンが策定されてから10数年経過しており、情勢等変わってきている中で、三朝町のこれからを担う子どもたちの育成に向け、今のビジョンを生かしながら第2次のビジョンを作ることを目的に審議会を設置した。
- ・任期は3月末まで。それまでに第2次のビジョンを策定したいと考える。

(3) 議 事

① 座長および副座長の選出について

座 長：高旗浩志氏 副座長：藤井 隆氏

② 教育委員会からの諮問について

【教育長】（諮問状読み上げ）

③ 第2次三朝町教育ビジョン策定の流れについて

【事務局】（資料「第2次三朝町教育ビジョン策定の流れについて」に基づき説明）

- ・昨年度から骨子案の作成として草案をつくってきた。
- ・30年度の年末までに5回としているが、進行状況に応じて開催していきたい。
- ・本日委嘱状の交付、骨子案の協議と進めていき、今後各委員さんから意見、提案をいただき、回を追う毎に肉付けを行い、成案に向けていきたい。
- ・成案ができればパブリックコメントを行い、教育委員会、議会で結果を報告し、概要版を町民への配布やHPでの公開ということで30年度中にまとめたい。
- ・31年度以降は具体的な取り組みについて検証する機会をどう設けるか、これは30年度で検討しつつ、31年度については事業を進めつつ検討という流れで進めたい。

【座 長】・PDCAを徹底していくというのは事務方の負担が大きいと思うが、よろしく願いたい。

【委 員】・チェックとあるが、具体的にはどうやって行うのか。

【事務局】・成案とするビジョンをどういった形にするかにもよるが、仮にビジョンの中に指標や目標となるものを入れる場合は、それに対しての達成度合いでチェックするようになると考える。

- ・既にあるものだが、毎年三朝町の教育の進め方としての具体的な計画があり、これについては毎年目標を掲げ年末に検証しているため、これを拡大するような形もあり得る。

【委 員】・1次については10年間の中で毎年検証はしているのか。

【事務局】・毎年の細かい計画については行っている。

【教育長】・三朝町の教育ビジョン第1次の場合、指標もなければチェックもできていない。

- ・教育委員会評価をしなければならない中で、単年の計画に数値目標を入れるよう徐々に変わってきた。
- ・ただし、その数値目標についても適切でないものが含まれるため、これについても見直したい。
- ・単年のチェック、中長期のチェック、そういったものも検討していただきたい。

【委 員】・この会の進め方は、PDCAサイクルとしては点検から入るのか。

【座 長】・本来であれば第1次のビジョンに対し、それがどうであったかという点検は必要。

- ・ただ、教育長が言われたとおり、明確な指標を設けていないということがあるので、今回は案と第1次を見比べながら、成果をどのように位置づけていくのかと

いう話が必要になっていくと思う。

④ 第2次三朝町教育ビジョンの骨子案について

【事務局】・（資料「第2次三朝町教育ビジョン骨子（案）」に基づき説明）

- ・平成18年3月に第1次のビジョンが策定され、その後の国、県の動きを受けて第10次三朝町総合計画ができ、その4年後に全国一斉で取り組まれた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を三朝町でも策定している。
- ・今後の社会情勢の変化へ対応するよう、第1次を見つめながら第2次に更新していくように考えている。
- ・策定根拠は国の計画や、町の総合計画、総合戦略になるため、当然連動していく必要があり、その他、三朝町教育大綱や、三朝町子ども・子育て計画等とも連動したものをと考えている（図示したものは5ページ）。
- ・検討段階の話だが、ビジョンの対象範囲は、町が主体となって行っている保育所、こども園、小学校、中学校に通っている子どもたちを対象とし、そこに特化した内容としたい。
- ・対象期間は平成30年度に策定し、平成31年度から10年間。
- ・ただし、チェックの話があったが、情勢の変化等も含め必要性があれば適宜変更したいと考えている。
- ・第2次ビジョンの基本理念が「夢と希望をもち ふるさとを愛する やさしくたくましい みささっ子の育成」ということで、これまでの教育ビジョンや教育大綱に沿った内容かつ、これからの先を見据えたものを想定している。
- ・目指す子ども像は、第1次のものに内容を加えたものとして（6ページ【目指す子ども像】（1）（2）（3）読み上げ）のとおり。（4）（5）が付け加えたもので、（4）が参画、交流、豊かなかわり、（5）が誇り、ふるさと愛を表現している。
- ・この子ども像を実現するための基本目標が8ページ（1）から（5）のとおりであり、実現支援としてハード、ソフト含めて（6）（7）としている。
- ・各基本目標を達成するための方向性として9ページ以降それぞれまとめており、具体的施策として各分類に対応するよう記載している。
- ・また、この具体的施策をさらに詳しくするものが具体的事業であり、予算化や実際の事業がこれに当たる。
- ・具体的施策については重複するものもある。
- ・基本的な方向や具体的施策等がこれで良いのか、また三朝らしさや将来の子ども像への思い、小学校統合を含めたところでの育み等さまざまな観点から意見をいただきたい。

【座長】・まとめると、今から検討しようとしている第2次ビジョンは、平成31年度を初年度として40年度までの10年間のビジョンであり、検証は加えていくが、向こう10年間を見据えたものであるということ。

- ・町全体の計画との位置関係として、まず三朝町第10次総合計画が平成23年度か

ら平成 32 年度のため、ビジョンが動き始めている途中で総合計画が動く可能性があるが、現在は総合計画の教育に関するところに根拠を置いている。

- ・もう 1 つ、三朝町教育大綱が平成 27 年度から平成 31 年度までのため、教育大綱が変わることとビジョンの切り替わりがほぼ同時に来るということ。
- ・さらには参照点として、平成 18 年度から現行ということで約 12 年になる第 1 次のビジョンがある。
- ・この 3 つを踏まえて考える必要があり、具体的な方向性や施策とどう絡めるか、成果を確認する指標とどう関連付けるか、三朝らしさはどうかということを検討していくことになると思う。
- ・教育長へ伺うが、教育大綱とビジョンの関係はどう捉えればよいか。

【教育長】・範囲を限定と言ったとおり、義務教育までの三朝で過ごす子どもたちに限定してつくりたい。

- ・教育大綱は幼児教育や家庭教育から、生涯学習という考え方で高齢者に至るまですべてを網羅したものであり、生涯学習の町づくり計画としてのいきいきプランは平成 21 年から変わっていないということもあるので、三朝をステージとした子どもの教育に特化したものをと考えている。

【座 長】・教育大綱というのは学校教育、義務教育に限らず、生涯学習を含めてということで非常に広範囲であり、ビジョンは主に義務教育に特化するという関係の中で、教育大綱とビジョンで具体的施策が重なってもよいと理解してよいか。

【教育長】・よい。

【座 長】・まず第 2 次と第 1 次を見比べると、基本目標（１）「確かな学力の育成」について第 1 次ビジョンでは（２）「社会に適応する能力を育成」の一部分として出てきており、それが今回から多角的な視点から 4 つに分類され、具体的施策も 10 個並べられている。

- ・基本目標（２）「豊かな心の醸成」は 1 次の（３）「規範意識の向上」、（４）「豊かな情操」に係るものと思う。
- ・基本目標（３）は、第 1 次の（１）「基本的生活習慣」が対応するのかなと思うが、全面には出ていないので少しトーンを抑えた印象。
- ・基本目標（４）「豊かなかかわりの醸成」は、第 1 次の（２）「社会に適用する能力の育成」の 2 番目以降が入っている。
- ・基本目標（５）「ふるさと愛の醸成」は、第 1 次の（４）「自然への畏敬の念と豊かな情操の育成」が入っている。
- ・大きな基本目標 5 つを厳密ではないが第 1 次と照らし合わせてみたが、第 1 次ビジョン策定にあたっては横木先生が委員として入っていたと聞いている。見比べてみて印象はどうか。

【委 員】・当時、委員会を立ち上げて意見を言い合っただけという記憶があまりない。

- ・事務局案のたたき台を骨格に話し合ったが、地域ということ考えたところにかなり時間がかかった。

- ・それは第1次の（４）「自然への畏敬の念と豊かな情操の育成」といった心の教育と重なったところや、自然豊かな三朝町といったところ。
- ・自然は偉大で学ぶものも多いが、しっかり向き合わなければならない。
- ・当時、災害や自然の移り変わりを見込んで立てなければならないと力説されたことを、昨今の災害で思い出した。
- ・特に三朝町は山あり谷あり川ありなので、心の教育と併せて特に時間をかけた。
- ・基本は家庭教育といかに合わせるかということで、1番に基本的な生活習慣が上がってきたものであり、その時から朝食や早寝早起等がテーマになり始めてきたもの。
- ・当時と基本のものが変わってきているように感じるが、どういった実態から変わったのか最終的に聞けたらと考える。

【座 長】・第1次を踏まえ、昨今の情勢を判断し改変したものとするが、基本的な考え方について再度説明を。

【事務局】・つくり方として、本来であれば第1次の教育ビジョンに肉付けや変更を加えて第2次をつくるものとするが、今回はあくまで0から、社会で求められているもの、三朝町で出ている課題等、また各学校で踏襲されてきている「知・徳・体」という大きな柱をどう表現するか、それらを考えたときにこういった並びとなったもの。

- ・委員が言われたように大きく変わったイメージを持たれると思うが、表現の大小なりはあるが、中身としては大きく変わっていない。

【副座長】・第1次について質問だが、基本方針（１）から（６）について順位があるわけではなく、この6点が柱ということではないのか。

【座 長】・順位はなく並列で6本ということだと思う。

- ・そうでなければなぜ1番、5番という話になる。

【委 員】・この5年、10年で相当核家族化が進む等問題点が出たと思うが、そういったここ5年10年で問題点として上がったことはないか。

- ・例えば子どもたちの柔軟性が相当低下していたり、スマホが原因で首や目といった問題も整形外科医から提言されていたりするが、第2次に向かう中でそういった問題点は上がっていないか。

- ・学校であれば雲梯やロープ登り等がなくなる等この10年でずいぶん変わってきたと感じている。

【教育長】・紹介すると、県体育保健課が3minutes（スリーミニッツ）エクササイズというのを西小学校でテスト的に行った。

- ・成果がもう少しで出るが、柔軟性が高まったという短期的な結果は出ている。
- ・鳥取県の子供たちの柔軟性が非常に悪いということから始まった。

【委 員】・全国で1番。

【教育長】・柔軟性が高まるということは怪我をしにくい身体になり、体感を鍛えることにもなるので、委員が言われたことにも通じる取り組みだと考える。

【委員】・そういったことが今回の第2次の時に議題なりとして出ていたかが聞きたい。

・スマホ等はどうか。

【副座長】・教諭時代はテレビゲームが問題となっていたが、今の子どもはそのレベルではないと感じる。

・電磁波も気になるかもしれないが、将来目や耳、脳や心の問題もスマホは影響している。

・非行等社会問題にも発展する等、警鐘を鳴らさなければ10年20年後の子どもたちがどうなるのかと思う。

【教育長】・全国学力状況調査や子どもの学習環境の調査があるが、三朝町の子は全国学力状況調査は比較的良い。

・総合的には点数は高いが、機械的なA問題は良く、思考力が必要なB問題が弱いという傾向が強いらしい。

・その他では貧富の差があり、要保護、準要保護という家庭への支援があるが、要保護は生活保護が対象のため福祉の方が、準要保護は教育委員会が行っている状況で、この人数がここ数年上がっている。

・児童全体の約10%がこの準要保護以下の世帯である。

・経済的な状況が悪い裏返しで、スマホ等もあって生活にお金がかかり、かつての収入で生活できなくなっている。

・遊ぶお金もたくさんいる等、感覚的な話だがそういったこともあると思う。

・そういった中で保護者は家庭教育する時間がないので、学童に預けなければならないということになるが、昔は「お世話になります」という感覚だったが、行政サービスとしてそれが必要なので「サービスだからちゃんとやってくれ」といった感覚に今はなっていると、数量化はしていないがそう感じている。

・委員も学校での保護者との対話等で「高校はサービスだからサービスしてくれ」という言い方が増えているのではないか。

【座長】・このビジョンの中にそれは反映されているか、まだ反映されていない状況か。

【教育長】・そこまでしていない。

【座長】・入れるとすれば基本目標の(6)や(7)になると考えるが。

【教育長】・そう。教育環境のハードとソフトのところでどう捉えるかになる。

【座長】・義務教育に限定して学校教育だが、それをどう周辺で支えるかを入れていこうと考えたとき、今のような相対的な貧困という問題に対し町としてどういった話ができるかをビジョンに入れようとすれば、やはり(6)や(7)になると思う。

・そういう視点で眺めれば、防災のことも畏敬という言葉だけでは済まされない現実的なものに対し、子どもたちこそに敏感になってくれるよう育てていくことが、非常に豊かな資質能力を育むことにつながると考えると、それも基本目標のどこかに入るのではないか。

・(5)であれば、単にボランティアで終わらせるのではなく、防災教育、地域災害というものに対し、感度高く向き合うということが入ってくることもあるのでは

ないか。

- ・そういう視点で三朝らしさを考えれば、三朝の教育における現実的な課題に対して、それがどうビジョン化されていくかということだと考える。

【副座長】・真庭市に関わっていたことがあるが、全国学力状況調査では真庭市も同じようにB問題がよくない。

- ・真庭市も小規模校が多く、きめ細かい指導ができるのでA問題は定着するが、Bの活用とか生かすとかはできにくいのかなと思う。
- ・そんな中、南小は平均より高くすごいと思うが、そういったきめ細かい指導はできなくなるだろうと思う。

【教育長】・全国学テというテストのことだが、先生の指導力を検証するためのテストであるとマスコミ等が違うことに使ってしまい、1等の取り合いになってしまい残念に思う。

- ・鳥取県を東部、中部、西部に分けると、全国学テにおいては中部、西部、東部の順番に平均点が並ぶが、高校入試においては東部、西部、中部という順番になる。
- ・中学3年生が部活動を終えてから相当頑張るのかなと思っている。
- ・また、中部の優秀な子が米東や鳥西に行ってしまうこともあるのかなと考える。

【委員】・学力の話はそんなにタブーな話ではないのか。

- ・全国的には秋田が学力は高いのは知っているが、なぜ秋田が高いのかというようなことを素人は思うが、そういう話はタブーではないか。

【座長】・一定の配慮は必要だと思うがタブーではないのではないのか。

- ・秋田も全国学テは高いが、大学進学率はどうかというと極端に低いという現状がある。
- ・全国学テに関して言えば、気にすべき順位や数字もあれば、気にすべきでない順位や数字もあり、多くのものはあまり気にすべきでないとは私は考える。
- ・指導の成果と受け止めながら、どう指導を改善するための材料とするかが大事だと思う。

【委員】・これからの子どもたちの生きていく社会は、情報、AIのことも出ているようにずいぶん変わってくと思う。

- ・職業も今ある職業が大きく変わってくるともいわれている中で、三朝町に誇りを持つ部分と、長い目で見たときに変わっていく社会への対応力、先を見据えた部分を義務教育のなかで身に付けていくべき力ではないかと考える。

【座長】・対応力というのは知的なもの、人間関係上の道徳性、情動性、規範意識を含めとても重要な要素。

- ・新しい学習指導要領で育てようとしている子どもたちというのは、まさに知的にも対人関係的にも柔軟性のある人を求めているので、それが各基本目標の鏡文として現れることが必要ではないか。
- ・その基本目標が目指しているものの前文があり、その後基本的な方向があり、具体的な施策があつてという形。

- ・ AI 等があり、そういった対応力が求められる時代に柔軟に対応できる子供たちを育てるといったことが、基本目標と書いてある文章の下に出てくるのが好ましいのかなと考える。
- ・ 防災のこと等も出てくるとよいのかなとも思う。

【委員】・新しい案の 10 ページ、これからの大事な部分が入っていると感じる。

- ・ 特に豊かな心の醸成の部分は自分と他人の良さを認め、互いに尊重し合えるというような、基本目標の中身で具体的にになっていることがとても良いと思う。
- ・ すぐに教育は育たないので、継続が大切。
- ・ 道徳的な実践力、道徳性が大事だが、三朝は世代家族なのにこの道徳性がなかなかなく、あいさつにしてもそう。
- ・ 人に対する気持ち、家庭では自分が伸び伸びしているのに、外では遠慮して引き下がってしまう等、葛藤する部分を乗り越えていく力も大切。
- ・ 第 1 次が生かされていると感じる。
- ・ 連携だけではなく連続性が大切であり、今までは参画、連携、交流ということでしてきたが、継続ということで考えてもらいたい。
- ・ スクラム教育といわれるので、いかにスクラムを組むかがこの連続性の継続につながると考える。

【座長】・保幼小中を含めた縦の子どもたちの育ちを学校としてカバーしていくことを入れるとすると、単なるハード面だけではなくソフト的に教育環境を支える（6）か（7）に入るのかなと思う。

【委員】・（6）（7）が重要と思う。

【座長】・（7）にソフト面が出てくるが、ハード的な方面に傾斜している印象なのでバランスをとる必要があるかもしれない。

【副座長】・みささっ子らしいというのは、8 ページにある「目指す子ども像」と 5 つあって、これが大まかな子ども像の柱だと思ったが、これでいくのかどうかで基本目標が変わると思うが、目指す子ども像は 1 次と 2 次で大きく違うのか。

【座長】・第 1 次は目指す子ども像が 3 つだった。

- ・ 第 2 次は目指す子ども像と基本目標が明確に対応するよう構造化されていて分かりやすくなっている。

【委員】・10 年先というが、10 年先は相当変わるだろうから、今分かっていることに対して提言できるようにと考える。

【副座長】・ますます少子高齢化は進むので、ロボットも活躍すると思う。

- ・ いずれ子どもは数日しか学校に通わず自宅でモニター越しの授業が進んでくるのではとも考える。

【委員】・首都圏は東京オリンピックを境に相当変わる可能性が高い。

【座長】・10 年前を考えて、ようやくスマホが出てきたことを考えると、そこまで見通すことは相当難しい。

【委員】・10 年先を見通すことは難しいが、現状傾向が出ていることに対しての手立てはで

きるのではと考える。

【副座長】・これからの時代をどう生きていくか、AI 等がある中で次の教育大綱の話にもなるが、ついていけないといけない。

【座 長】・特定のトピックへの対応はあるかと思うが、基本的なところで、時代が変わろうとも普遍的に大事にしておかなければならないことを、言葉として紡いで入れておくことが基本ラインとしてあると思う。

- ・第1次をあえて見ずにつくった良さがあると同時に、第1次の思いを振り返ると入れた方が良くと思えるものもあるのではないか。
- ・第1次（2）社会に適用する能力の育成の④で、テレビ、パソコン、携帯電話等情報機器に対し既に記述があり、これらにはネガティブな側面はあるが、上手に使いこなすという言い方にすることでビジョンにし得る。
- ・また（3）の②、スポーツや文化活動、異世代交流を通じてとあるが、何のためにスポーツや交流を行うかという意味が、ルールやマナーを習得するということに着地しており、ビジョンの中で「どうしてこういう子どもにするんだ」ということに届いている記述になっているところが良い。
- ・第2次の基本目標（3）の記述が相対的に薄いため、第1次のビジョンの良さを受け止めながら手厚くできればと考える。
- ・第2次では基本目標の中で「基本的方向」が白丸で出ているが、それぞれが具体的な施策と結びつくよう設定されていて非常にすっきり構造化されていて良い。
- ・構造の良さを生かしながら、ビジョンの読み手が誰かを考える必要がある。
- ・1つは町民の皆さんということ、もう1つは学校の先生方。
- ・これを学校の先生が読んだときに、「教育委員会は自分たちにこんなことをさせようとしているのか」と思わせてしまうのか、「自分たちが日々行っていることがしっかり受け止められており、ビジョンがあることで日々やっていることを支えてもらえるんだ」と思わせるかで大きく違うので、後者になるような記述になるよう、そういったトーンを大事にするようお願いしたい。
- ・次回以降は具体的な施策とのつながりについて詳しく解説をお願いしたい。
- ・それによって確認指標、成果をどう読み取るかという議論ができるかと思う。

【事務局】・本日の御意見をまとめて骨子の案を検討していきたい。

- ・まとまったものは事前に委員さん方へ送付し、次回の協議に向かいたいと考える。

（4）その他

【教育長】・学校の先生たちにとってもビジョンが応援する役割を果たす、そういったメッセージをという話があり大変ありがたかった。

- ・特に学校の中で先生たちが生き生きと活躍していただくことを応援することも教育委員会の役割かと思う。
- ・昨今、学力と働き方改革ということで、ビジョンの中で部活動をやれということと、ブラック企業のような教育現場というのが議論される。

- ・本来、子どものスポーツ活動、文化活動の支えは地域の中で、社会教育のステージでやるべきかもしれない。
- ・学校では人間関係のルール、マナー、道徳的、人権教育という方がストレートかもしれないが、そういったことを学校で行ってほしいところがある。
- ・学校の職場環境は劣悪だと感じており、男女別の更衣室がないとか、職員用トイレがない等、普通考えられない特別な労働環境だと思う。
- ・学校の先生が働きやすい環境を考えていきたい。
- ・教える側も教えられる側も健康でなければならない。

【副座長】・次回の日程はどうか。

【事務局】・未定、今後調整していきたい。

【委員】・小中一貫校を目指しているのか。

【教育長】・個人的には別々の方が良いのかなと思う。

- ・小学校が2つ、中学校が1つというのが自分の中の理想だが、既に基盤がある。
- ・ただ、いずれ子どもの数が減ると中学校に集約された学校になることも考えられる。
- ・標準校という教員配置のルールがあり、極端だが3学年1クラスのような話になると、教科の先生が配置してもらえなくなる状況は考えられる。
- ・英語の話であれば、子どもの少ない地方は中学校に英語の教師を配置し、小中両方を見るようなことも考えなければならなくなるかもしれない。

【座長】・人口減少に伴う統廃合、小中一貫校を含め、経済的な問題が非常に大きいですが、規模縮小を単なる削減としてではなく、人員の割り当ても含め、仕組みを利用しながら豊かな教育を実現するためのきっかけにすることが重要。

【教育長】・財政的な都合が働いていると感じることもある。

閉 会